

事業所名 : グループホーム ひきめの森

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200293		
法人名	株式会社 JAライフサービス		
事業所名	グループホーム ひきめの森		
所在地	〒028-2102 岩手県宮古市墓目5-48-2		
自己評価作成日	令和7年9月23日	評価結果市町村受理日	令和7年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の身体機能の変化に、より早く気付くことが出来、対応をより早く行うことが出来ている。自宅にいた時には、便秘等で1週間以上排便することが出来なかった利用者様が、現在は、あまり便秘することなく生活することが出来ている。グループホーム内に平行棒を設置し、歩行訓練を行う事で、下肢筋力の低下を防ぐことが出来ている。その事で、転倒の危険を少なくし、膝の痛みが少なくなることを目標にしている。また、裏の畑で季節の作り収穫し、皆さんで季節のものを食べることで、季節感を感じることが出来ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道106号線沿いの周囲に集会施設、分団屯所がある。静かな住宅地の中心にある事業所である。近くには系列のグループホームがあり、運営推進会議の開催や災害時の備蓄、夜間の避難支援など協力体制が整い、連携の取れた事業運営を行っている。「人・思い・心・楽しく共に」の理念・方針に基づき、人としての思いを大切に、心優しく、生きがいをもち楽しみながら、和やかな雰囲気では職員とともに暮らしている。事業所は広いホールを有し、そこに平行棒を設置し、訪問看護事業所の協力のもと利用者の歩行訓練を実施している。職員と利用者が1対1で訓練を継続することで、下肢筋力の維持につながっており、転倒防止が図られている。以前床上浸水を経験しており、災害に対する意識は高く、避難の際には近隣の方々が避難した利用者を見守る役割を担い、訓練にも参加するなど事業所と地域の協力体制が整っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の内容について、毎月の職員会議の前に職員が復唱することで、再度認識するよう心がけている。	開設当初からの理念「人・思・心・楽しく共に」は、利用者の思いを大切に、生きがいを持ち楽しみながら暮らしたいという思いが込められている。自室で新聞を読みたい、テレビを見たい等の利用者の思いや利用者ができる事をプランに反映させている。職員からは分かりやすい理念であり、変更の必要はないと意見があり、修正等は行っていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの発生時期から、地域との行事を行う機会が出来なくなっている。但し、近所の方が自宅で出来た野菜(大根や玉ねぎ等)持ってきてくださり、食材として使わせていただいている。また避難訓練の際には、地域の方も参加の協力をお願いしている。	運営推進会議、避難訓練には地域の方の参加があり、野菜の差し入れが届くなど近所との関係性は良好である。コロナ禍以降、家族や近所の方々が参加できるイベントは開催できていないが、地域の情報は、運営推進会議で委員である区長から提供がある。	この地域において、事業所は地域の大切な社会資源と言えます。積極的に事業所を開放し、地域の方と利用者が触れ合う機会を確保することは、事業所を広く理解してもらい、認知症ケアの拠点としての活動につながると思われまます。系列の事業所と協力しながら、今後の地域活動の在り方について検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新里地区の地域包括支援センターからの依頼があり、日中一人となっている地域の男性の情報の共有を行っている。(認知症の為、本人が職場を退職したにも関わらず職場に仕事をしに行ったり、車通りの多い道路を歩いたり危険な状態にあった。グループホームで草取りなどの作業をしていただくことで、抛り所となるよう声かけ等の支援を行っていた。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に参加されている市役所の方や、にいさと包括支援センター、地域の区長さんと利用者の利用状況や事故、ヒヤリハットの報告を行う事で現状の報告を行っている。他事業所での取り組み例をお話していただくことで生かすことが出来ている。災害や火災等起きた際の協力体制を運営推進会議の際にお願いし、墓目地区の役員の方の電話番号を職員間で共有することで緊急時の協力体制が出来ている。	地域の区長、市介護保険課、地域包括支援センター、訪問看護事業所、この地区にある系列の事業所職員を委員として2か月に1回開催している。事業所の行事や利用状況、事故等の報告を行い、事業所に対する委員の理解に繋がっている。区長からは地域の情報について提供いただいている。	運営推進会議では、地域の事業所理解と事業所の地域情報収集を深めることができる場です。地域からの視点を交えたより多面的な意見交換の場となることから、委員メンバーに隣人や地域で活動している方等の参加を検討するよう期待します。また、家族をメンバーに加えることで、事業所の活動により関心を高めてもらうことに繋がると思われます。

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居された利用者様の中に、自宅で虐待を受けていた利用者様が入居されているが、現在は、面会が出来ない状態にある。宮古市の介護保険課の方と連携を取りながら対応に当たっている。現在は、以前は家族の希望で面会したいとお話が有り、一時介護保険課の方の同行で面会を行っていたが、面会時に自宅に戻らない事を話をするとグループホーム内で大暴れをし現在は面会できない状態にある。	市の担当者とは、普段から電話や往訪で相談や情報交換を行っている。市から依頼があった利用者の緊急受け入れについても、情報共有を行い、適切な助言を得て、必要な支援につなげている。災害時には、市から防災情報の連絡が電話で入ることから、避難等の準備を円滑に行うことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当事業所では、身体拘束を3要素そろわない限り行わないことを重要事項説明書に唱っている。立ち上がりが出来ない利用者様の見守りを行っていても、一人で立ち上がろうとし転倒してしまったり転落を防ぐことが出来るようベットの下にマットを敷いたり、立ち上がった際に職員が気が付けるようセンサーを設置することで身体拘束につながらないようにしている。	全職員が参加して、身体拘束適正化委員会を年に3回開催している。同時に研修を行い、身体拘束や権利擁護等についての基礎知識の習得や事例検討を行っている。スピーチロックが見受けられた時には、職員同士で、その都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待を絶対行わない事を職員同士が認識し、利用者様の身体状況の変化がないか入浴時等観察を行い、その都度朝礼や職員会議等で報告を行っている。新しく入居された利用者様の中には、自宅で虐待を受けていたため宮古市の介護保険課からの依頼があり入居されている利用者様もいる。その後、その家族様の状況を知らせていただきながら対応に当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	当グループホームでは、成年後見人の利用されている利用者様が2名入居されている。1か月に1回の頻度で後見人の方が来所され、職員が対応することで学ぶ機会となっている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひきめの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	グループホームに入居される際には、重要事項説明書の内容や契約書の内容も説明し納得していただいた上で、契約書に氏名の記入を行っていただいている。その都度疑問等お聞きすることで、不安なく入居することが出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	以前は、運営推進会議にご家族の参加をお願いし、参加していただくことが出来ている時期もあったが、コロナの感染が見られていることや、ご家族が仕事をされていたり都合がつかなくなったりすることが続いたため現在は、参加していただくことが出来ていない。利用者様の希望はその都度職員に話が出来る状況を作りながら対応に当たっている。またご家族からの希望についても、利用者様の状況を説明した上で来所時に伺う様にしている。	利用者と1対1で関わる時間、特にも入浴介助時の会話を大切に、困っていることや希望を聞いている。食べたい物についての希望があれば、誕生日会で提供している。行きたい場所については、自宅の場合には家族に伝え、外出等をお願いしている。家族の要望は面会時に把握しており、話があった面会時間の延長は個別に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や毎月の職員会議を行った際に、職員からの意見を出してもらえるようにしている。また、事務所長や管理者が意見を話しやすい環境作りに務めている。	職員会議では勤務シフトやハード面についての意見が出され、夜勤明けの休日指定やウォシュレット付きトイレの設置が具体化している。職員の経験年数や年齢の違いはあるが、居心地の良い話しやすい雰囲気や育むよう職員全体で意識し取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員からの希望でトイレをウォシュレットにしたい、BSを付けてほしい等の希望があり上司と相談し取り付けを行っている。また勤務時間の調整や希望の曜日の休みの希望を取り入れることで、働きやすい環境づくりに努めている。		

事業所名 : グループホーム ひきめの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	宮古市で実施している研修や他の外部研修に参加することで、職員の技術向上に務めている。また、訪問している訪問看護事業所の研修や事業所内での研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業所本店が毎月行う経営検討会に参加することで、事業所間の連携や情報共有を行うことが出来ている。以前は、地域のグループホーム協会等との定期的な管理者会議や交流があったが、現在は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	グループホームの申し込みがあった際に本人との面会を実施し、利用者様の生活状況や環境を考慮しながら本人の希望を伺うようにしている。本人の状況については、聞き漏らしの無い様注意している。また入居時初期において、利用者様が不安にならないように職員が寄り添い、お話を出来るだけ聞くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者様やご家族の生活環境、今までしてきた職歴等をお聞きすることで、自宅での環境と出来るだけ近づけることで安心して生活できるよう心がけている。また、その都度ご家族様の希望や不安になっていることを聞き出せるよう支援を行っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当グループホームの待機している待機者様について、ご家族やケアマネ等に情報を確認することでどの待機者様が早急に利用することが最適なのか見極めるようにしている。今回は、自宅での虐待がある待機者を優先的に入居していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の出来ることをお願いし、個人個人のできることを役割となるように支援を行っている。利用者様の体調の変化に気付けるようにし、利用者様が話しやすい環境づくりに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	一時コロナが蔓延したことにより、ご家族との面会が遠のいてしまった経過もあるが、感染の状況に気を付けながら、その都度適切な対応が出来るように心がけている。また利用者様の体調の変化が有った場合には、ご家族に直ぐに連絡できる体制を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで生活してきた環境や人間関係を極力変えないように努め、面会していただけるようにお話をしている。今まで自宅で使用してきた馴染みのものを部屋に持ち込んでいただくことで、本人の生活がより落ち着いて生活できるよう工夫を行っている。ご自分の大切にしている人形を持ち込んでいる方もいる。	面会のほか、4人の利用者の家族が受診の付き添いを行っている。その後自宅や店に寄るなど利用者との時間を作っている。面会には親戚等も来ている。近所の方は、利用者が散歩やウッドデッキにいると声をかけてくれ、関係性は良好である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクや体操を行う際に職員が、利用者同士が一緒に行うことが出来るよう支援を行っている。競い合うゲームや利用者様同士で問題を考えることで話し合う機会が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様の退居後や、入院中の関係機関に連絡を取りながら情報共有に努めている。また退居後に困ることがない様に、同事業所の居宅や関係機関と情報共有し、支援の継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員と利用者が信頼関係を保つことにより、利用者様の意思や希望を聞くように務めている。今回入浴は、グループホームでは基本週に2回としているが、週3回入浴したいとの希望があり実施している。また前の入居していた施設の利用者様に逢いたいとの希望があった利用者様については、連絡をし面会することが出来た利用者様のいる。	言葉で思いを表出できない利用者は1人だけである。職員はつぶやく一言を聞き洩らさず、思いを寄せ、希望を把握するよう努力している。利用者からは、入浴回数を増やしてほしい、以前の施設の利用者に会いたい等の希望があり、職員全体で共有し、叶えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の申し込みがあった際に、本人や家族関係、関係機関の方と面会を実施し状態の把握に努めている。出来るだけ生活歴や趣味、今までにしてきた職歴、ご家族や本人の意向を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の生活の状況や身体状況について職員間での把握に努め、身体状況や精神状態に状態変化があった場合には、職員や訪問看護との連携において情報共有に努めている。必要に応じて家族との連絡も行い、病院受診等を行っている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居している利用者様が高齢となっていることや、身体的な機能の低下が見られている。身体機能の低下や認知機能の低下を防ぐため、職員が平行棒を利用した歩行訓練や介護職員が利用者様と関わることにより、低下を防ぐようにしている。介護職員が一人ひとりに担当を決め、利用者様の小さな変化にも気付けるようにしている。	入居時には、事前に管理者が自宅を訪問した上で、本人と家族のアセスメント後に暫定の計画を作成している。利用者の能力等を把握し、1ヵ月後に見直しを行っている。通常の短期計画は3ヵ月、長期計画が6ヵ月で見直しを行っている。モニタリングは毎月利用者の担当職員と計画作成担当者が行い、職員会議で他職員から意見をもらい職員全体で共有している。家族には面会時や電話で説明し了解を得ている。計画の中には平行棒での歩行訓練を掲げており、転倒回数等の減少等の成果が見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の日々の状態を申し送りノートや他の排泄チェック表等に記録することで、介護職員間での情報共有を行い、身体状況等の変化が有った際(便秘傾向にある利用者様など)には、医師や訪問看護と連携することにより改善できるようにしている。また、利用者様に個々の担当を付けることによりモニタリング等行いながら、日々の生活に生かすことが出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護職員の特技を生かし、利用者と一緒に毎月壁紙装飾等を行っている。その際には、利用者様全員が参加できるように工夫を行っている。毎年時期により梅干づくりを実施したり、饅頭屋さんに長年勤めていた利用者様を中心にし饅頭づくりを行い、利用者様や職員と一緒に味わい楽しんでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前台風10号による豪雨で被害に逢ったことが有り、今後の台風や地震等の災害が起きた際の地域の協力体制を構築するため地域の区長様をお願いし、いざという時駆けつけていただけるよう連絡先を職員間で情報共有を行っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時前にかかりつけ医としていた病院を出来るだけ変更せず、通院できるように支援を行っている。ただし身体状況や精神状態に変化があった場合には、ご家族に報告し状態にあった医師へ通院できるように支援を行っている。そのことでご家族や利用者様が安心して生活できるよう心がけている。	利用者の半数程度は入居前の医療機関を主治医としている。定期受診は家族対応が4人、その他は事業所に対応している。受診結果については、家族に状況を伺ったり、事業所から電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週定期的に訪問看護が訪問することにより、バイタルや排泄についての変化を報告している。便秘が続いている利用者様は、浣腸を実施していただくことにより利用者様が快適に過ごせるように支援を行うことが出来ている。また乳癌の再発が発覚した利用者様については、寄り添いお話を聞いていただくことにより安心感が得られている。その都度職員が気付いたことや訪問看護に診ていただいていることにより、適切に医師に報告することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の病院へ普段の生活状況を伝えるとともに、利用者様家族が遠方にいる場合には、入院時に使用するものや普段に使うもの等の援助を行っている。常に入院先の入院時の状況を教えていただくとともに、ご家族との連絡も行える体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当グループホームでは、癌末期の方の宣告を受けた利用者様や99歳の利用者様の支援をご家族、担当医師、訪問看護、介護職員と共に関係を密にに対応に当たっている。担当医師から受けた指示の内容を訪問看護、介護職員と共に情報交換を行い共に方針の決定を行っている。グループホーム内には、遠方にご家族がいる利用者様やご家族も利用者様より高齢となる利用者様が存在するがその際には、ご家族の甥に当たり方との連絡を取りながら支援することになっている。	これまでに3人の利用者の看取り介護の経験がある。担当医師、訪問看護と連携し、協力し対応できる体制を整えてきた。重度化した場合や終末期に入った場合は、利用者の状況に応じて事業所でできる事を利用者や家族に対して説明している。時には特別養護老人ホームの利用を提案する場合もあるが、意向を確認した上で、できる限りの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日中は、急変が発生した場合には、管理者に報告し状態を確認した上で訪問看護師に連絡し、指示をいただくことにしている。夜間については、夜勤者のほかに宿直者を置くことにしている。夜間に転倒や急変が起きた場合には、夜勤者は、宿直者に応援をお願いし管理者へ報告を行う。その後は、訪問看護師に指示を仰ぎ救急車を依頼するべきか判断することになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行う際に墓目地区の方の参加をお願いし、協力しながらの避難訓練を行っている。墓目地区の区長様へ、夜間帯や日中において職員が早急に駆けつけることが出来ない時に協力が得られるよう墓目地区の役員の連絡先を教えていただき、代わりに駆けつけていただくような体制を整えている。台風10号で以前被災していることからグループホームの周りに戸水壁工事を行い、万が一の場合に備えることが出来ている。	避難訓練は年に2回行われており、地域の方々の参加もお願いしている。地域の7、8人の方の参加があり、避難した利用者の見守りの役割を担ってもらっている。夜間想定訓練を薄暮時に実施している。事業所はハザードマップでは浸水区域となっており、平成28年の台風10号の際には床上浸水を経験している。水、食品、薬等は3日分以上備蓄し、暖房器具、発電機も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりがグループホーム内で生活しているうえで、一人で楽しめる時間を取ることが出来るよう、職員、利用者様と共に心がけている。部屋で新聞を読んだり好きなテレビを見たり出来る時間を設けている。グループホーム内での研修の実施や本店の実施する研修に参加することで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行う事に務めている。	利用者からの希望があり、居室で一人で好きなことをする時間も大切にしている。利用者は新聞をじっくり読んだり、猫の世話をするなどそれぞれの時間を楽しんでいる。入浴、排泄時にドアを開けたままの時は職員が静かに閉めたり、失禁があった時はさりげなくトイレや居室に誘導し取り換への支援を行っている。また、利用者の特技、経歴を活かし、饅頭屋に勤めていた方には、一緒に饅頭を作り利用者へ振る舞う場面をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様本人が職員に気を使わずに自分の意思が表現できるよう、職員が利用者様の言葉遣いや表現に注意しながら声がけを行う事にしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員との仕事をお手伝いしていただく際に、利用者様ごとに出来ることを提供するが、無理にさせようとしない。活動の選択権は、利用者様に任せている。その利用者様の体調に合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居時に、入居前に利用している美容院を利用するのか、グループホーム内でお願いしている理容店の訪問カットをお願いするのか確認することになっている。以前は、近所に理容店が有り、必要に応じて利用することが出来ていたが、閉店してしまったことにより利用することが出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好きなものを普段から聞き、利用者様本人の誕生日会や年末行事の際等に準備し楽しんでいただくことにしている。また食事の前の調理の下準備、盛り付け等をお手伝いしていただき、食後の食器洗いやすすぎ後片付け等を利用者様のできる範囲での役割を決めてお手伝いしていただいている。時々一緒におやつ作りをしながら、3時のおやつ時間に職員と一緒に食べている。	献立は職員が作成し、利用者の好きなものを誕生会に準備したり、地域の方からの差し入れや事業所の裏にある畑でとれた野菜や果物を取り入れている。彼岸や年末年始等の行事食も準備している。食事の準備は買い物から後片付けまで含め、利用者全員が何らかの役割を持ち関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の献立、食事摂取量や水分摂取量を利用者様ごとに記入し職員同士が把握することで、必要な摂取量を取ることが出来るよう心がけている。通院した際の血液検査の結果を把握しながら、糖分、塩分や水分量の制限の必要な利用者様については、食事等を提供する際に調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者様に起床時、食事の終了時口腔ケアを行っている。口腔ケアのできない利用者様に関しては、介護職員が介助を行い、本人が出来る場合においても状況に応じて職員が声かけを行い介助を行うようにしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の記録を利用者様ごとに毎日行い、排せつ時間、排泄量、形状等の記録を行っている。長時間排泄が出来ない利用者様に関しては、医師や訪問看護師に情報提供を行う事により、利用者様の排泄のパターンを把握し、失禁の無い様に心がけている。1週間排便の無い利用者様が存在したが、便を柔らかくする薬や便秘薬を処方していただきながら便秘解消に向け支援を行っている。	オムツを昼夜使用している方はいない。リハビリパンツを使用している方は9人、ほぼ自立できている方は1人である。トイレへなかなか行こうとしない方には、排泄チェック表を活用し、特別感がないよう明めに声かけを行い誘導している。入居前はひどい便秘だった利用者については、食事に留意し、医師に相談し投薬を受けることで、現在は解消している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日利用者様ごとに排泄チェックを行い、排泄チェック表に記入することにより職員間の共有を行い、便秘の防止を行うため、牛乳やヨーグルトを定期的に摂取していただくことを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一人ひとり入浴の曜日を定め、週に2回の入浴を基本としているが、希望のあった利用者様には週3回の入浴が出来るように支援を行っている。また、入浴の時間を利用しながら利用者様とお話を通して、介護職員との会話の時間を楽しくするようにしている。入浴剤を時折変更することで、入浴を楽しまれている。	月曜日～土曜日の午後、一日3人が入浴している。利用者は週に2回入浴しており、入浴時は、職員と利用者が一対一の場面となることから、じっくりと話を聞く機会としている。食べたいものや行きたい場所の話が多く聞かれる。入浴を楽しめるよう、季節に合わせた入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間帯に眠ることが出来ない利用者様については、眠れるまでホールで介護職員が付き添いお話を聞くようにしている。昼夜逆転の傾向にある利用者様については、日中意欲的に活動できるように支援を行う事で夜間寝ることが出来るように工夫している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の普段の生活を行う中で生活状況に変化がないか、服薬等により状態変化が見られないか等、職員同士注意観察を行っている。服薬を確実に行っていただけるよう職員が仕分けを行い、間違いなく服薬していただけるよう支援を行っている。職員が、その都度手渡すことで、確実に服薬を行っていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎朝コーヒーやお茶を楽しみに起きてくださっている利用者様もいる。また、現在大谷選手が大活躍のドジャースの野球観戦を楽しみにしている利用者様も居て、利用者様や介護職員と一緒にホールのテレビ観戦を行っている。皆さん熱心に「今日は、ドジャースの試合があるの？」と毎日楽しみの生活されている。部屋で、自分の時間は新聞を読んだりテレビを観たりして楽しんでいる利用者様も居る。介護職員も楽しむことが出来るよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	身体的なことやコロナ感染による環境的なことなどにより、なかなか外出することが出来ていないが、ウッドデッキに出てお茶を楽しんだり外の空気を感知ながらグループホームの周りを散歩したりしている。その他ご家族様が通院の帰り等に買い物に出かけたりしていただいている。今回は、グループホームで花見に出かけたり埠頭に豪華客船が来た際には、数人で出掛けたりしている。	事業所の裏にある畑の作業時や、ウッドデッキで外気浴を行っている、近所の方から声をかけられ、会話を楽しむこともある。通院時は、家族とともにそのまま遠出しアイスクリームを食べたり、自宅に寄ってくる方もいる。周囲の散歩や花見に出かけたり、来港する豪華客船を見に行き利用者は喜んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	グループホームでは、基本お金をもってこないことが原則となっているが、少額の現金を持っている利用者様については、希望が有った際には、一緒に買い物に出かけたりしている。また利用者様家族が通院後など買い物に連れて行っていただいている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけることができる利用者様は少ないが、ご家族等からの電話が有った際や、電話を掛けたいと希望が有った利用者様については、会話が出来るよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設内のホールは、壁の装飾を毎月変えるようにしており、装飾を行う際には利用者様全員が手伝うようにしている。裏庭には畑が有り、出来上がったものを利用者様に味わっていただけるよう、食事で提供している。トイレや浴室には、利用者様の希望があり、以前から有った手すりに加え2か所に手すりを加えることにより動きやすくしている。	ホールは広く、55型のテレビを設置している。テレビの前には広めのソファが置かれ、利用者はゆったりと過ごしている。テレビを見ない方は、テーブルの椅子に腰かけて好きなことができる環境にある。壁には、職員と利用者が作成した花飾りや季節感のある装飾が施されている。南側にはフラットな動線で洗濯物干し場があり、利用者も使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	会話の合う利用者様が隣同士に座ることが出来るようにしている。また意思疎通の難しい利用者様については、職員が間に入り会話の出来る環境づくりに心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の配置は、入居の説明の際に利用者様の希望通りに配置していただけることを説明している。テレビを自室でもみたいとの希望のある利用者様については、テレビを設置している。野球の大リーグの試合を自分の部屋でも見たいとの希望が有った利用者様については、自室ではBSが見られない状態にあったが、配線等設置し、観ることが出来るようにしている。	居室は8畳ほどの広さで、ベッド、クローゼットが備え付けられており、床暖房となっている。BSが見られるテレビ、人形、アレクサ等を持ち込み、入居前の生活に近づける事や居室での一人の時間も大切にできるような環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様一人ひとりが出来ることを、入居前にご家族や本人から聞くようにしている。また入居後にも、今まで自宅では調理が出来ても火が心配なこともありできない状態にあった利用者様については、職員と一緒に見守ることで可能となっている。グループホームの裏庭には畑が有り、収穫した食材を一緒に下準備をしたり、一緒に調理をしたりしている。		